

## JMOOC 講座

### 1. 概要

インターネットを利用したオープン教育は、学生に対する学修補助効果、教育の質の向上が期待されるだけでなく、「大学の知」を社会に還元する社会貢献にもつながるものであり、本学の新たな「価値」「意味」を創出する役割を担うと考えられる。また、広報効果として、その性質から国内のみならずグローバルに本学の知名度を高めることが期待できる。

本学は 2014 年度より日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）に参加し、毎年 JMOOC 公認プラットフォーム「gacco」にて 1～2 講座を開講してきた。2020 年度はコロナの情勢下で新規コンテンツの制作が出来ず、2016 年度に開講した講座を再開講した。

### 2. 利用状況

#### (1). 開講講座情報

講座名:世界に日本語を広げよう!～” そうだったのか” の日本語教育学～

講師:異文化コミュニケーション学部 教授 池田伸子

講座アシスタント:異文化コミュニケーション研究科生(言語科学専攻) 1名配置

開講予定期間:2020年10月1日(木)から4週にわたり開講予定

受講登録者数:1,990名

受講修了者数:229名

修了率:15%



図1: JMOOC 講座コースカード



図2: JMOOC スライドイメージ

(2). アンケート集計

JMOOC プラットフォームを運営している㈱ドコモ gacco から提出された「受講状況等各種集計結果と受講者からのアンケート結果についての分析報告書」より一部抜粋する。

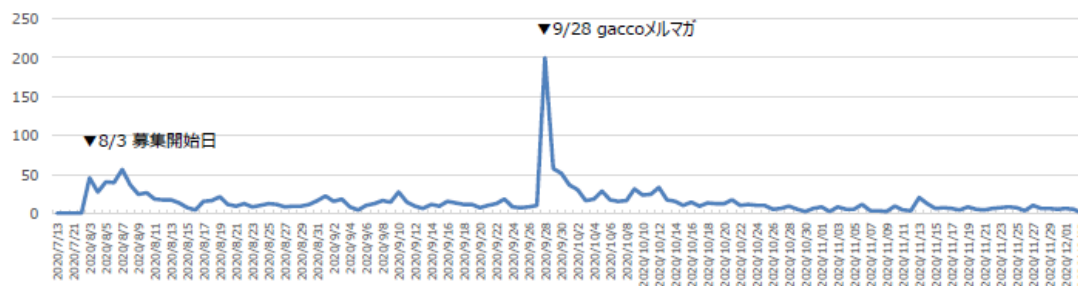
① 受講状況

	受講者数	ディスカッションスレッド数	修了率
世界に日本語を広めよう! ~ "そうだったのか"の日本語教育学	1,990	39	15%
gacco講座平均 (2019年度平均)	3,075	29	15%

② 性年代別受講状況

	男性							女性							その他
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
受講登録数	42	83	91	98	139	145	99	166	156	163	199	208	90	23	288
受講登録構成比	2.1%	4.2%	4.6%	4.9%	7.0%	7.3%	5.0%	8.3%	7.8%	8.2%	10.0%	10.5%	4.5%	1.2%	14.5%
他講座平均	0.6%	7.0%	10.1%	13.4%	13.5%	8.6%	4.6%	0.5%	4.2%	5.4%	6.1%	5.0%	1.8%	0.6%	18.6%

③ 受講登録推移



現在のお仕事についておうかがいします。あなたは普段どのような仕事をなさっていますか。

No.	カテゴリ	実数	%
1	01. フルタイム	57	36.1%
2	02. パートタイム、アルバイト	35	22.2%
3	03. 専業主婦(夫)	22	13.9%
4	04. 無職	35	22.2%
5	05. 小学生	0	0.0%
6	06. 中学生	0	0.0%
7	07. 高校生	1	0.6%
8	08. 短大生・高専生・専門学校生	0	0.0%
9	09. 大学生	3	1.9%
10	10. 大学院生(修士課程)	1	0.6%
11	11. 大学院生(博士課程)	2	1.3%
12	12. 上記以外の学生	2	1.3%
	回答数合計	158	100.0%

### 3. 2020年度のまとめ

今年度はコロナ禍で担当教員の選定が間に合わず、本学 JMOOC として初の再開講となった。再開講では講座の申請、著作権処理、資料改訂に1～2ヶ月間程の準備期間を要したが、2020年10月に開講を迎えた。

性別・年代別集計では、女性受講者が10～50代にかけて満遍なく受講していたこと、他講座と比べて10代の受講者割合が多いことから、ボランティアや就職・転職を見据えた日本語教育への関心の高さとニーズを捉えた講座であったと考えられる。

受講後アンケートにも「基礎知識として日本語教育の全容を知りたい、という目的を達せられました。」「なんとなく日本語教師というものに興味を持っていたのですが、それがより明確になってきたように感じます。」といった社会人女性からの意見や、「教育学部で、教育行政学・教育内容・学校管理講座を専攻し、国語科教員免許を取得していたので受講してみたのですが、日本語教育の現状と課題を知ることができ、その点では受講したメリットがありました。」といった学生視点からのコメントが見受けられた。

今回は再開講ということで、運営側としては準備期間のおおよその目途がついたこと、また「面白かったが、データが古くなりつつある。できれば授業内容の刷新（アップデート）をお願いしたいと思う」というアンケート意見も多数あり、再開講とはいえ何らかのブラッシュアップの必要性を感じ、今後の講座運営の参考となった。